

～ひだまり～

第3学年 学年目標

伸ばせ学力 鍛えよ心

第3学年だより

第 11 号

情熱謳歌～共に最高の自分へ～

運動会練習が始まりました。初日は「色別結団式」から始まり、各クラスの色別長を中心に、3年生らしくスタートすることができました。放課後には、応援団の練習や学級旗の製作、係の仕事など、それぞれが積極的に活動をしています。3年生の学年種目である「大ムカデ」も、個性あふれる掛け声で、心をひとつに、練習に励んでいます。勝ち負けにこだわるだけに留まらず、応援し合い、励まし合い、友達と心通わせる感動的な大運動会になることと思います。どうぞお楽しみに。



～「進路説明会」・「高校の先生の話聞く会」のご案内～

19日(月)に案内を配布します。参加票のご提出をお願いします。(締め切り: 26日)

30日(金) 進路説明会

- ①中学校卒業後の進路
- ②昨年度入試を振り返って
- ③都立高校と私立高校の入試システムについて
- ④志望校の選び方
- ⑤その他(就職・奨学金等)

6月5日(木)

高校の先生に話を聞く会

～来ていただく学校名～

- ①都立東高等学校 普通科
- ②都立篠崎高等学校 普通科
- ③都立葛飾総合高等学校 総合学科
- ④都立葛西工科高等学校
工業科(機械科・デュアルシステム科・
電子科・建築科)
- ⑤関東第一高等学校 普通科
- ⑥二松学舎大附属高等学校 普通科
- ⑦愛国高等学校
普通科・商業科・家政科

1人2校選んで聞いてもらいます。学校の特色もありますが、普通科のみならず、様々な学科の話聞くことをお勧めします。

今後の予定	日	予 定
	19(月)	生徒朝礼 安全指導 教育実習開始 耳鼻科検診 ⑥学年練習 放:係会、応援団、学級旗
	20(火)	⑥:予行準備 係会 ※応援団 学級旗・応援メッセージ完成
	21(水)	①～④運動会予行 ⑤総合:クラス別作戦会議
	22(木)	※予行予備日 朝練:学年練習(全員参加) 放:応援団
	23(金)	①学年練習予備日 ④色別決起式 ⑤⑥前日準備 係会 放:英検 ※腎臓検診(尿検査)予備日
	24(土)	第54回運動会

沖縄返還の日(1972年5月15日)に思う

3年生の平和学習では初めに、沖縄戦について自分で調べ、学びました。調べ上げたレポートは、土曜の授業公開で展示しましたが、どの生徒も大変よく調べ上げていて、大きな成長を感じることができました。今年は、戦後80年。沖縄返還から、53年が経ちました。この瑞江第三中学校が創立されたのと同じ年に返還されています。ここに、生徒たちの沖縄戦の感想をまとめてみました。ご一読ください。



ひめゆり部隊を調べて

- ・ひめゆり部隊の人口は私達と同じぐらいの年齢にもかかわらず、患者を第一に考えることができたことに驚きました。今回の学習を通して、より命の尊さと、当たり前のように友達と笑って過ごせる今の大切さを学びました。
- ・自分たちと同じぐらいの女の子が看護活動などをしなくなってしまったのを知ってすごく心が痛くなりました。
- ・終わった戦争でも、今なお多くの問題を抱えている事がわかりました。
- ・ひめゆり学徒隊は私と同じぐらいの年代の人々が看護要員として動員されたが、私がいもし動員されて働いていると思うと、とても辛くて、絶対にやりたくないなと思いました。そもそも戦争があるのがだめなのです。解散命令などを出してしまったせいでさらに犠牲者が増えてしまったのが残念です。
- ・自分と同じぐらいの年の子たちも戦争に出ていたのが想像もつかなくて、自分だったら逃げ出すぐらいの怖い思いをしていたのだと知りました。今も、今後絶対にないという話ではないなと思いました。
- ・僕はひめゆり部隊を調べて、戦争の悲惨さを感じました。僕と歳も近い人達が戦争に行かされて、最前線で戦ったなんて考えられないです。僕は戦争を経験していないからこそ、平和学習を大切にしたいと思います。



集団自決について

- ・集団自決を調べて、命を守るためには、正しい情報を得て正しく使うことが大切だと思った。
- ・沖縄戦全体としては集団自決での死者数は少ないものの、沖縄戦での出来事としてはもっとも悲惨です。このことを忘れずに今を生きて行きたいと思います。

沖縄戦と沖縄の戦後

- ・自分はつい最近、沖縄へ行った。野球の大会で沖縄に友達ができただけ。だけど今回この沖縄戦のことを初めて知ってすごく身近なことに感じた。今自分ができることを考えたら何もないけれど、日本にもこういう歴史があったということを心に刻んで生きていけたらと思う。
- ・実際には日本軍が劣勢に立たされているにもかかわらず、正確な情報が隠されてしまっているのは怖いと思った。兵力を補うために14歳から19歳までの生徒まで戦争に巻き込むのはかわいそうだった。この時代では、今では考えられないことが起きていたことを知った。
- ・日本は今平和だが、平和でない国も少なくない。80年前の日本のような状況が、少し離れた場所で今も続いている。目の前で子供を殺された親、いつ終わるかわからない戦争に精神を病まされてしまった軍人たち。他人事ではない。日本もいつそうなるか、あるいはそれよりも悪い状況になるかわからない。だからこそ、今を大事に生きるべきだと考える。
- ・1回の戦争で80年もの長い間、当時の問題を抱えていることにとっても驚いた。